

JPNタクで車いす拒否

街頭指導会議 苦情3事例を報告

トヨタの新型タクシー専用車「JAPANタクシー（JPN TAXI）」関連の最近の苦情が、13日の東京地区街頭指導会議で報告された。関東運輸局の石川雄司・自動車交通部旅客二課長は、車いすスロープ

の設置方法が分からないという理由で乗車を断る▽スライド式のドアが閉め切らないうちに発進する▽車間距離を十分取らず、自動ブレーキが作動した際に急ブレーキがかかるーの3点を示した。

関東運輸局はユニバーサルデザインタクシーの取り扱い方法の指導・教育の徹底を求める通達を、5日付で各団体に出した。

東京タクシーセンターの渡辺英雄専務理事は「現在、日産『NV200』で実務研修をしているが、JPNタクシーで実施したい」とし、東京ハイヤー・タクシー協会の門井正則専務理事は「トヨペットから、早ければ7月末ごろにJPNをタクセンに送ってもらえる」と説明した。

東京ハイタク協議会の坂本善映常任理事は「JPNにはスライドドアの下にケ

ーブルがある。お客が早く降りたい一心で、ドアが開く前にそこに足を乗せ、スライドでケールが引張られたときに足を巻き込まれる事案がkmグループで起きている。周知したほうがいい」と話した。

同会議の議長は東京運輸支局長が慣例的に就いている。新任の高山和征氏は「利用者の支持を得るため、東京のタクシーは進化を続けている。行政も連携し、さらなる安心・安全なタクシーの実現に向け頑張りたい」と抱負を述べた。

教育徹底を通知

東タク協

東京ハイヤー・タクシー協会（川鍋一朗会長）はトヨタの新型車「JAPANタクシー（JPN TAXI）」の車いす乗降問題で、

スロープの出し方など乗務員教育を徹底するよう7日付で会員事業者に通知した。管理者自らがJPNタクシーの各種機能に習熟し、実物を使って訓練するよう求めた。

関東運輸局から5日、「操作が分からないとの理由で、運送の申し込みを断られたという事例が寄せられている」と指導要請があり、6日の正副会長・専門委員長会議で協議した。「エアコンの風が直接、客に当たる」などの声も紹介され、トヨタ側に伝えることにした。